

付録1 レポート・論文の書き方の参考文献

論文・レポートの書き方について、さらに詳しい文献を紹介します。論文・レポートを書くために必要な知識と技術を習得するためには、まずどれか一つ読み通してください。レポート・論文の書き方が、必ず向上するはずです。

(1) 文章作法や文章表現がわかる入門書

- 『大学生のためのレポート・論文術』 小笠原喜康（講談社現代新書 1603）
講談社 2002：本館学閲 [US1/0199]
今すぐレポート・論文を書く必要がある人に、お薦めの本。レポート・論文の書式設定から説明しているのので、すぐに書き始めることができる。その後には思考の方法もあり、後半では卒業論文の執筆の流れなどにも言及していて、実用的である。新入生でも読みやすい文章と、読みやすいレイアウトである。
- 『理科系の作文技術』 木下是雄（中公新書 624）中央公論社 1981：
本館書庫 [M112/010]
理科系の「仕事の文書」である論文の書き方の概説書で、ロングセラー。「仕事の文書」は、情緒的表現よりも事実と意見が確実に読み手に伝わることを重視するという考え方に基づいて、主に論文に必要な文章の構成や表現方法を、わかりやすく解説している。文科系や一般の人にとっても参考になる。
- 『レポート・論文の書き方入門』 第3版 河野哲也 慶應義塾大学出版会
2002：本館学閲 [UC813/049]
本書は、特に文科系の大学生向けにレポートや論文の構成の仕方を、ハウツー的にまとめている。文献が研究の素材となる文科系の学生にとって、「テキスト批評」という有効な準備方法について紹介している。引用や注、参考文献の作成方法まで、具体例を多くのせて実用的であることも特色といえる。
- 『日本語の作文技術』 本多勝一（朝日文庫）朝日新聞社 1982：
本館学閲 [KF151/055]
読む側にとってわかりやすく、誤解を与えない文章とはどのようなものか、豊富な事例を挙げて説明している。修飾語の語順や、句読点の使い方についての解説は参考になる。特に4章までの前半は、日本語の文章作法についてもっとも具体的で分かりやすい名著。執筆当時、著者は新聞記者であった。

(2) 情報収集の方法もわかる入門書

- 『レポートの作り方：情報収集からプレゼンテーションまで』 江下雅之
(中公新書 1718) 中央公論社 2003：本館学閲 [US1/0197]
文章の書き方や論文の構成だけではなく、「中身」の作り方を含めて調査研究の全体について書かれている。テーマ設定・構想から、資料収集・整理、調査（アンケート調査・インタビュー調査）、レポート作成（図表・本文）、発表までの各段階ごとに説明している。個々の作業の説明は多くないが、よく整理されている。レポート・論文作成の全体像を見ることのできる本。
- 『インターネット完全活用編 大学生のためのレポート・論文術』
小笠原喜康（講談社現代新書 1677）講談社 2003：本館学閲 [US1/0199]
前掲『大学生のためのレポート・論文術』の続編。「インターネット上の情報のみでレポート・論文を書くことができるのか」がテーマの意欲作。サイトの紹介はオーソドックスでありながら多岐にわたっているため、インターネット上のみとはいえ情報量は多い。

(3) 学術論文の執筆方法がわかる参考図書

- 『学術論文の技法』新訂版 齊藤孝，西岡達裕 日本エディタースクール出版部 2005：本館学閲 [UC813/064]
人文科学、社会科学系の学生で、これから論文を書き始めようとしている人、あるいは論文を書く必要にせまられていても、どこから手をつけたらいいのかわからずに悩んでいる人にお薦めの本。本書では論文執筆のためのルールとテクニックが丁寧に述べられており、順を追って読み進んでいくうちに頭の中が整理できる。
- 『これから論文を書く若者のために』大改訂増補版 酒井聡樹 共立出版 2006：本館学閲 [UC813/043]
これから学術雑誌に論文を投稿するという人にお薦めの本。学術雑誌に論文を載せるためにはどのようにすればいいかを、多くの例を挙げて説明している。例も、実際の雑誌論文であったり、サッカーの例であったり、若者にわかりやすくする工夫にあふれている。著者は東北大学教員である。